

西棟へはここをクリック

岩手県 グループホーム今が一番館 東村 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作った。		理念は作っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その内容を日々確認できるよう、ホーム内に掲示してある。		常に理念を念頭に置き、支援するように心がけている。新入職員にも周知徹底している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットを始め、ホームページ等に記載している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ、近所の人と挨拶を交わしたり、話しをする機会がある。		回覧、村の広報へ施設の行事のお知らせ
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り等に利用者と参加。子ども会の廃品回収への参加。		保育園児、ボランティアとの交流

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族介護者教室の開催(年2回)。施設長は、キャラバンメイトとして認知症ケアの啓発に努めている。		実習生の受入
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段、自分たちだけでは気が付かない部分を、外部の目を通して気づかせていただけるよい機会と受け入れている。	○	前回指摘された家族会の設立は、行事を通じて家族間の交流を図れるよう基盤を作っている最中である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護職員、家族、行政の方々より意見を出してもらい、実践することにより、地域の方々との交流の機会も増えた。		前年度のひやりはつと報告書・事故報告書をまとめたものを、運営推進会議で発表した。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受入により、村の考え方を伺うことが出来る。また、当ホームの利用者の状況を見てもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、利用者の中に権利擁護を利用している方がいる。		その利用者へ関わる人、関係機関を知る為に勉強している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	村の方から、身体・経済的虐待を受けている人の相談がある都度対応している。		緊急性の高い方は、空室が出来た際、優先的に入居できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、同意書等を示しながら話し合いを丁寧に行っている。不安、疑問点についての意見は、入居してからない。	入居・退居のどちらの場合でも、本人・家族・ケアマネ等とよく話し合い、説明を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、アンケートを出す、あるいは意見箱を設置し、無作為に投書できるようにしてある。	利用者が運営推進会議に参加している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ケア計画を出し、説明し、確認していただき、署名・捺印をいただいている。	定期的にホーム便りを出し、報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	勉強会等の全員で集まれる時に、ハード面・ソフト面でのアンケートを上司に出している。	ミーティングは、各棟で随時、勉強会は全体で月1回行っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ハード面の直してもらいたいところを意見として提出し、施設長、理事長に上申している。	行事、レクリエーション等は職員のアイデアをもとに行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時にも対応できるよう、人員配置を手厚くしている。	現在の勤務時間は利用者の生活リズムに合わせて決めたものである。突発的な出来事に対しては、時間外で対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係、信頼関係を築くことは大切なので、異動や離職は抑えるよう努力している。	職員が定着するよう環境整備に努めている(給与、人間関係、仕事の意欲等)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数、実務経験を考慮し、研修を受講している。	資格取得のための研修への案内・勉強のために有休休暇を取得しやすいように人員配置、職員の学習環境を整えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の定例会の参加、年2回の同業者間の交換研修等、共に情報交換できる勉強会に参加している。	社内研修の認知症疑似体験、救急救命講習を村内のグループホームにお知らせし、参加してもらった。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無理なシフトを作らない、話し合う等勤務環境づくりをしている。	○ 勉強会のテーマとして、職員のストレスについて話し合った。今年度の人事考課の際にメンタルヘルスについても項目を追加する予定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場で所有している図書を、図書館方式で職員に貸し出している。資格取得や研修への参加をしやすい人員配置をしている。	○ 今年度より、自己評価を導入し職員が個人目標を立て、評価を行い、その結果と人事考課に生かす予定である。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に利用者さんの面接をしている。	センター方式によるアセスメント行い、家族にも協力していただき利用者の思い、生活歴等の情報を収集するよう努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に、ご家族との話し合いに必ず計画作成担当者、リーダーが関わり、ゆっくりご家族の困っていたことを伺い、これからの不安を除くよう努めている。	利用者、家族の思いをグループホーム内での生活に活かせるよう環境づくりに配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に適した支援を見極め、対応している。		在宅での生活が継続できるよう、サービスの組み合わせの検討を担当のケアマネに協力してもらっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が早くホームになじむように観察を強化しながら、サービスを模索していく。		家庭で使用していたものの持込みを勧めている。利用者は、在宅での生活を望んでいるので、納得してからの入居は難しいが、環境に早く馴染めるよう努力している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、経験の中(調理法や味付け等)から学んでいる。		利用者を1人にせず、本人の興味のある会話等に触れる。作業を行う中で、生活の知恵を伝授していただくことが多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居するまでの家族の苦労、精神的な心労に対し、労いながら側面からの援助をお願いしている。		計画書を提示する際に、家族から情報をいただき、ケアの中で実践に活かすようにしている。家族の声かけで期待できる部分をお願いしている(下着を着けない利用者への声かけ)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	身体的、精神的な疲労が取れた頃、入居当時の関係がよい方向に行くような話題(嫁を労っている言葉が聞かれる等)を出して、安心してもらおう。		家族の関係は、その家庭によって様々だが、利用者・家族の両方がベストと思えるような関係作りを支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねてきてくれる人はいつでも拒まず、利用者が忘れているときは、職員が介入して会話を取り持つ等の支援をしている。		地域密着型サービスになったことにより、地元の方の入居を主にしている。それにより、なじみの方の面会が多くなった。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が関わってコミュニケーションづくりに努めている。		車いす利用の利用者を同居者が介助したり、一緒に同性同士入浴している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した元利用者に、併設のデイサービス利用を勧めたところ、現在サービス利用を継続している。他施設に転所した元利用者がたまに遊びに来たりする。		長期入院のため、退所になった元利用者の洗濯物の手伝いを現在も行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話よりご本人の希望を引き出すようにしている。		センター方式によるアセスメントの導入により、かなり情報収集がしやすくなった。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの職歴、生活暦の中での特徴を伺い、それまでの生活により近い状況でケアできるよう努力している。		個別ケアを大切にしている。そのための情報収集に力を入れている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自由な毎日ではあるが食事、排泄、睡眠の把握は密にし、健康状態を重点に気をつけている。		生活暦を把握することで、利用者の体内時計を崩さないようにしている。毎日のコミュニケーションで総合的に見直している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の各棟で別々のケアカンファレンスを行い、常に利用者、家族の意向を模索している。		ケア計画を作成する際、本人の状態を職員全員で見ながら計画を作成する。それを家族に見てもらい、意見をいただいたり、同意を得ている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	加齢による身体的レベルの低下、それに伴う精神的ダメージ等日々申し送りの中で、考えている。		日々の観察により、変化がある場合は特記に記入する。その内容をカンファレンスで検討し、計画を立てている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の計画はしっかりつけている。		業務に入る前に記録の確認を行うようにしている。ケア目標に対する評価は、毎日チェックしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム内でのデイサービスやショートステイは、実施していないが、併設のデイサービスの中で対応できる支援を行っている。		併設しているデイサービスで、体操やレクリエーションを地域の利用者と楽しんでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	随時ボランティアに来ていただき、踊りやマジック等楽しんでいる。地域の子ども会にダンボールの寄附をしている。		年2回の避難訓練を通じて、建物の構造や機能を消防署の方々に理解していただいている。保育園児、ボランティアの訪問等協力がある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎日デイサービスの体操やレクリエーションに参加したり、必要に応じて通院し、リハビリも受けている。		協力医の診断により、必要な利用者は病院で行っているリハビリを受けに行っている。また、ホーム内で行うことのできるリハビリのメニューを考案してもらい、実践している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの紹介による利用者が、権利擁護を利用している。		計画作成担当者が、毎月村で行う地域ケア会議に出席し、情報を得ている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(内科、整形外科、歯科、眼科、神経内科)にそれぞれ定期受診をし(看護師同行)健康の維持に留意している。		通院に関する同意書を入居時にいただいている。事業所の協力医以外にも入居前からのかかりつけ医に受診できるよう協力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医の神経内科の先生が認知症に理解を持って接してくれている。</p>		<p>介護職員と協力医の先生方との関係も良好で、連携も大変うまくいっている。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師の配置により、協力医の先生方との連携が非常に密になり、医療面での支援が行いやすくなった。</p>		<p>看護師と介護職員との関係も良好である。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>まずは、日頃の健康維持を優先しているが、骨折等の場合でも早期の退院に向けて協働している。</p>		<p>必要な治療を受け、症状が安定していると医療機関が判断すれば、早期に対応し、受け入れている。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>認知症状が高度な利用者、高齢な利用者の家族から順に終末期の話し合いをし、一筆いただいている。</p>		<p>協力医から、認知症以外の疾病についての説明があった場合はその都度、家族に報告している。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期に向けた具体的な係り分担表や組織図は作成していないが、利用者の体調管理をしっかり行い、協力医の指示で備えられるよう検討している。</p>	○	<p>「できること・できないこと」については、話し合っている最中である。利用者・家族の希望を尊重していく予定ではあるが、職員のストレスも考慮し、かかりつけ医と相談しながら、ホームで出来る範囲で協力していきたい。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居の際は、利用者の身体的レベルを考慮し、トイレ、浴室に近いところ、職員の目の届きやすい部屋等を検討して、精神的な部分でも安心できるようにしている。</p>		<p>転居の場合には、事前に施設を見学し、利用者の現状から考えられる注意点等を申し送る(ハード面、ソフト面)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄、入浴、夜間等のプライバシーには十分に気配りし、記録物の扱いも職員のみに分かるようにしている	利用者の個人情報に関するものはアンケートを実施し、それを基に掲載許可のないものは広報誌等で使用しない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者自ら、掃除(掃除機かけ、モップがけ)、食事の前後の家事に関わってもらっている。	利用者からの訴えは、利用者のペースに合わせて聞き、その都度対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れ(主に食事時間)はあるが、それも個人差があり、天候が良ければ畑に出る人、散歩する人、またコタツにいる人様々である。	入浴等も希望があれば、夜間の対応もしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一ヶ月に2回理容師が来て、カットしてくれるが、希望により美容院に行き、毛染めをする方もいる。	更衣の順序が違ったり、重ね着があつたりするも、声掛けにて季節、気候に合った服装をしていただいている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共同して調理、盛り付け、配膳等をしている。片付けも利用者主導で行っている。	季節の食材を使用(敷地内の畑で収穫した物等)。行事(誕生日)に合わせたメニュー、利用者希望のメニューを入れている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿病でインスリン注射を行わなければいけない利用者があり、難しいことがあるが努力している。	水分摂取時、利用者個々の好みで飲み物の内容を決めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく長い間、布の下着で過ごして貰いたいので、個々の排泄リズムの把握をしている。		加齢による排泄の不具合にも対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けにて、時間に制限のない入浴を実施している(仲のよい利用者2人での入浴)		希望の入浴剤を入れる(季節のものとして菖蒲、ゆず等)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、体を動かす。外気に当たる等して、夜間の安眠を促すようにしている。		昼寝を居室だけではなく、畳の上ですたりしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、談話、TV鑑賞、ドリルを解く、編み物をする、それぞれ好きな事をしてもらっている。		食事の準備、片付け、掃除等の家事をしてもらっている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している利用者もあるが、家族がお小遣いを持たせていない場合には、買い物の時に好きな物を選んで貰う。お金は、施設で立替えて、後で家族に清算してもらっている。		買い物をした際には、利用者に会計をしてもらう。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ほとんど外に出ている。外に出てテラスでの談話、ボール遊び、散歩や畑仕事を行っている。		レクリエーションとして、外食、花見、紅葉狩り、温泉等集団で出かけることもあるが、利用者の希望に合わせて、近場をドライブすることがある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	博物館、記念館、道の駅等に出掛けている。年2回(春秋)家族にも参加していただき、温泉に出掛けている。		ふるさと訪問もしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が書いた手紙は、必ず相手に届くよう協力している(相手の住所を読みわけられないような場合)		自由に交信できるよう配慮している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、近所の人が訪問してくれた際は、居室、ホールに区別なく居てもらい、談笑してもらっている。		訪問、面会は自由にしてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していない。		言葉の中でも拘束するような(ダメ、後で、待ってね)言語は、極力避けるようにしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関のチャイムにて見守りし、鍵はかけていない(遅番の帰る時間→19:30以降に戸締りの為、鍵をかける)		部屋に鍵をつけてない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	無断で外に出る利用者、夜間トイレ後等に居室が分からなくなった利用者に対してそれぞれに対応している。		日中は、デイ、事務、東西各棟お互いに連携を取りながら、気をつけている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等、注意の必要な物は見えない所に保管し、職員が管理している。		日常的に、目隠しの付いたボックスに入れてある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・ハット、事故報告書等を回覧し、それぞれの感性で防止に努めている。		夜間、定期的に居室を見回り、危険のないよう配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、各棟の分かりやすいところに置き、職員は時間のある時、常に見て、把握している。		消防署より指導に来ていただき、講習を行っている(救急救命)。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員が災害対策、避難訓練の実施、救急救命の講習を受け、身につけている。	○	災害発生時の地域の方へのボランティア協力を検討中。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険なことは、家族が訪問してくれた時、近況を伝えながら、話している。		履きやすい、歩きやすい靴、動きやすい、着脱しやすい服等、観察し必要な物は家族と相談している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、行動の緩急、顔色等に気を配り、異常時は職員全員が把握する。		看護師への報告、入浴時の観察
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリスト及び効能、副作用等を把握している。服薬時は必ず確認している		症状の変化は必ず看護師に報告し、医師との連携で指示を仰ぐ。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の量、水分摂取量を把握し、体を動かす事で予防している。	○	食物での便秘予防を検討中
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食前のうがい、三食後の口腔洗浄、夜間の入れ歯洗浄、消毒を毎日している。		ポリデント使用

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の不安定な利用者の主、副、汁をバランスよく摂取できるよう配慮している。		毎月、体重測定を実施
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のワクチン接種は、家族の承諾を得、実施している。		調理から食事までの時間を短くするよう気をつけている うがい、手洗いの励行
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等、毎晩漂白		管理表を作成し、毎日チェックしている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく、チャイムがあり、人の出入には職員が対応する		玄関周りに、花等が飾ってある
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の靴箱に季節ごとの飾り、ホールのカレンダーの工夫、テーブルの上の生花の飾り、廊下は余計な物は無く、躓くことはない		トイレの便器には高低があり、利用者の使いやすい方を使用できるようになっている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスに長いすがあり、自由に外気浴ができる。ホールにはコタツがあり、横になったり、TVを観たり、利用者は、自己決定にて居場所を確保している。		閉じこもり気味の利用者には居室から出るよう促す

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に自分の馴染みの物を持ち込むようにしている。居室内のコレクションに利用者の写真(家族のも一緒に)貼ってある		家族へ利用者の馴染みの物を持ってきてもらうよう、要請している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	不快な臭いは、早く掃き出すよう努めている		24時間換気をしている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレへの手摺りの設置している		ホールへは腰をかけて足を上げる、四つんばいになったの昇降
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口に利用者の名札が下がっている。		夜間はトイレ後、混乱を起こし、自室がわからない利用者には誘導する
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇、プランター作り、畑、ベンチ等の使用、広い駐車場で歩行運動		天気の良い日は、利用者も活動的である

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、お互い支えあいながら、利用者、職員共に日々「今が一番」と思える瞬間を共有しています。このことが、実践できるのは、利用者と職員、そして家族の思いが一つになっているからだと思います。四季の移り変わりを行事を通じて楽しむ、毎日の家事をこなす、皆で食卓を囲む、団欒を楽しむ・・・当たり前の毎日を送っています。

東棟へはここをクリック

岩手県 グループホーム今が一番館 西棟 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>職員全員で作った。</p>		理念は作っている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>その内容を日々確認できるよう、ホーム内に掲示してある。</p>		常に理念を念頭に置き、支援するように心がけている。新入職員にも周知徹底している。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>パンフレットを始め、ホームページ等に記載している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>日常的に散歩や買い物に出かけ、近所の人と挨拶を交わしたり、話しをする機会がある。</p>		回覧、村の広報へ施設の行事のお知らせ
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域の祭り等に利用者と参加。子ども会の廃品回収への参加。</p>		保育園児、ボランティアとの交流

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族介護者教室の開催(年2回)。施設長は、キャラバンメイトとして認知症ケアの啓発に努めている。		実習生の受入
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段、自分たちだけでは気が付かない部分を、外部の目を通して気づかせていただけるよい機会と受け入れている。	○	前回指摘された家族会の設立は、行事を通じて家族間の交流を図れるよう基盤を作っている最中である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護職員、家族、行政の方々より意見を出してもらい、実践することにより、地域の方々との交流の機会も増えた。		前年度のひやりはつと報告書・事故報告書をまとめたものを、運営推進会議で発表した。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受入により、村の考え方を伺うことが出来る。また、当ホームの利用者の状況を見てもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、利用者の中に権利擁護を利用している方がいる。		その利用者へ関わる人、関係機関を知る為に勉強している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	村の方から、身体・経済的虐待を受けている人の相談がある都度対応している。		緊急性の高い方は、空室が出来た際、優先的に入居できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、同意書等を示しながら話し合いを丁寧に行っている。不安、疑問点についての意見は、入居してからない。	入居・退居のどちらの場合でも、本人・家族・ケアマネ等とよく話し合い、説明を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、アンケートを出す、あるいは意見箱を設置し、無作為に投書できるようにしてある。	利用者が運営推進会議に参加している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ケア計画を出し、説明し、確認していただき、署名・捺印をいただいている。	定期的にホーム便りを出し、報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	勉強会等の全員で集まれる時に、ハード面・ソフト面でのアンケートを上司に出している。	ミーティングは、各棟で随時、勉強会は全体で月1回行っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ハード面の直してもらいたいところを意見として提出し、施設長、理事長に上申している。	行事、レクリエーション等は職員のアイデアをもとに行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時にも対応できるよう、人員配置を手厚くしている。	現在の勤務時間は利用者の生活リズムに合わせて決めたものである。突発的な出来事に対しては、時間外で対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係、信頼関係を築くことは大切なので、異動や離職は抑えるよう努力している。	職員が定着するよう環境整備に努めている(給与、人間関係、仕事の意欲等)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数、実務経験を考慮し、研修を受講している。	資格取得のための研修への案内・勉強のために有休休暇を取得しやすいように人員配置、職員の学習環境を整えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の定例会の参加、年2回の同業者間の交換研修等、共に情報交換できる勉強会に参加している。	社内研修の認知症疑似体験、救急救命講習を村内のグループホームにお知らせし、参加してもらった。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無理なシフトを作らない、話し合う等勤務環境づくりをしている。	○ 勉強会のテーマとして、職員のストレスについて話し合った。今年度の人事考課の際にメンタルヘルスについても項目を追加する予定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場で所有している図書を、図書館方式で職員に貸し出している。資格取得や研修への参加をしやすい人員配置をしている。	○ 今年度より、自己評価を導入し職員が個人目標を立て、評価を行い、その結果と人事考課に生かす予定である。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に利用者さんの面接をしている。	センター方式によるアセスメント行い、家族にも協力していただき利用者の思い、生活歴等の情報を収集するよう努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に、ご家族との話し合いに必ず計画作成担当者、リーダーが関わり、ゆっくりご家族の困っていたことを伺い、これからの不安を除くよう努めている。	利用者、家族の思いをグループホーム内での生活に活かせるよう環境づくりに配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に適した支援を見極め、対応している。		在宅での生活が継続できるよう、サービスの組み合わせの検討を担当のケアマネに協力してもらっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が早くホームになじむように観察を強化しながら、サービスを模索していく。		家庭で使用していたものの持込みを勧めている。利用者は、在宅での生活を望んでいるので、納得してからの入居は難しいが、環境に早く馴染めるよう努力している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、経験の中(調理法や味付け等)から学んでいる。		利用者を1人にせず、本人の興味のある会話等に触れる。作業を行う中で、生活の知恵を伝授していただくことが多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居するまでの家族の苦労、精神的な心労に対し、労いながら側面からの援助をお願いしている。		計画書を提示する際に、家族から情報をいただき、ケアの中で実践に活かすようにしている。家族の声かけで期待できる部分をお願いしている(下着を着けない利用者への声かけ)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	身体的、精神的な疲労が取れた頃、入居当時の関係がよい方向に行くような話題(嫁を労っている言葉が聞かれる等)を出して、安心してもらおう。		家族の関係は、その家庭によって様々だが、利用者・家族の両方がベストと思えるような関係作りを支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねてきてくれる人はいつでも拒まず、利用者が忘れているときは、職員が介入して会話を取り持つ等の支援をしている。		地域密着型サービスになったことにより、地元の方の入居を主としている。それにより、なじみの方の面会が多くなった。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が関わってコミュニケーションづくりに努めている。		車いす利用の利用者を同居者が介助したり、一緒に同性同士入浴している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した元利用者に、併設のデイサービス利用を勧めたところ、現在サービス利用を継続している。他施設に転所した元利用者がたまに遊びに来たりする。		長期入院のため、退所になった元利用者の洗濯物の手伝いを現在も行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話よりご本人の希望を引き出すようにしている。		センター方式によるアセスメントの導入により、かなり情報収集がしやすくなった。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの職歴、生活暦の中での特徴を伺い、それまでの生活により近い状況でケアできるよう努力している。		個別ケアを大切にしている。そのための情報収集に力を入れている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自由な毎日ではあるが食事、排泄、睡眠の把握は密にし、健康状態を重点に気をつけている。		生活暦を把握することで、利用者の体内時計を崩さないようにしている。毎日のコミュニケーションで総合的に見直している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の各棟で別々のケアカンファレンスを行い、常に利用者、家族の意向を模索している。		ケア計画を作成する際、本人の状態を職員全員で見ながら計画を作成する。それを家族に見てもらい、意見をいただいたり、同意を得ている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	加齢による身体的レベルの低下、それに伴う精神的ダメージ等日々申し送りの中で、考えている。		日々の観察により、変化がある場合は特記に記入する。その内容をカンファレンスで検討し、計画を立てている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の計画はしっかりつけている。		業務に入る前に記録の確認を行うようにしている。ケア目標に対する評価は、毎日チェックしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム内でのデイサービスやショートステイは、実施していないが、併設のデイサービスの中で対応できる支援を行っている。		併設しているデイサービスで、体操やレクリエーションを地域の利用者と楽しんでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	随時ボランティアに来ていただき、踊りやマジック等楽しんでいる。地域の子ども会にダンボールの寄附をしている。		年2回の避難訓練を通じて、建物の構造や機能を消防署の方々に理解していただいている。保育園児、ボランティアの訪問等協力がある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎日デイサービスの体操やレクリエーションに参加したり、必要に応じて通院し、リハビリも受けている。		協力医の診断により、必要な利用者は病院で行っているリハビリを受けに行っている。また、ホーム内で行うことのできるリハビリのメニューを考案してもらい、実践している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの紹介による利用者が、権利擁護を利用している。		計画作成担当者が、毎月村で行う地域ケア会議に出席し、情報を得ている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(内科、整形外科、歯科、眼科、神経内科)にそれぞれ定期受診をし(看護師同行)健康の維持に留意している。		通院に関する同意書を入居時にいただいている。事業所の協力医以外にも入居前からのかかりつけ医に受診できるよう協力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医の神経内科の先生が認知症に理解を持って接してくれている。		介護職員と協力医の先生方との関係も良好で、連携も大変うまくいっている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の配置により、協力医の先生方との連携が非常に密になり、医療面での支援が行いやすくなった。		看護師と介護職員との関係も良好である。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	まずは、日頃の健康維持を優先しているが、骨折等の場合でも早期の退院に向けて協働している。		必要な治療を受け、症状が安定していると医療機関が判断すれば、早期に対応し、受け入れている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症状が高度な利用者、高齢な利用者の家族から順に終末期の話し合いをし、一筆いただいている。		協力医から、認知症以外の疾病についての説明があった場合はその都度、家族に報告している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に向けた具体的な係り分担表や組織図は作成していないが、利用者の体調管理をしっかり行い、協力医の指示で備えられるよう検討している。	○	「できること・できないこと」については、話し合っている最中である。利用者・家族の希望を尊重していく予定ではあるが、職員のストレスも考慮し、かかりつけ医と相談しながら、ホームで出来る範囲で協力していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際は、利用者の身体的レベルを考慮し、トイレ、浴室に近いところ、職員の目の届きやすい部屋等を検討して、精神的な部分でも安心できるようにしている。		転居の場合には、事前に施設を見学し、利用者の現状から考えられる注意点等を申し送る(ハード面、ソフト面)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない 排泄、入浴、夜間等のプライバシーには十分に気配りし、記録物の扱いも職員のみに分かるようにしている		利用者の個人情報に関するものはアンケートを実施し、それを基に掲載許可のないものは広報誌等で使用しない。
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている 利用者自ら、掃除(掃除機かけ、モップかけ)、食事の前後の家事に関わってもらっている。		利用者からの訴えは、利用者のペースに合わせて聞き、その都度対応している。
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している 一日の大きな流れ(主に食事時間)はあるが、それも個人差があり、天候が良ければ畑に出る人、散歩する人、またコタツにいる人様々である。		入浴等も希望があれば、夜間の対応もしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている 一ヶ月に2回理容師が来て、カットしてくれるが、希望により美容院に行き、毛染めをする方もいる。		更衣の順序が違ったり、重ね着があつたりするも、声掛けにて季節、気候に合った服装をしていただいている。
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている 共同して調理、盛り付け、配膳等をしている。片付けも利用者主導で行っている。		季節の食材を使用(敷地内の畑で収穫した物等)。行事(誕生日)に合わせたメニュー、利用者希望のメニューを入れている。
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している 糖尿病でインスリン注射を行わなければいけない利用者があり、難しいことがあるが努力している。		水分摂取時、利用者個々の好みで飲み物の内容を決めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく長い間、布の下着で過ごして貰いたいので、個々の排泄リズムの把握をしている。		加齢による排泄の不具合にも対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けにて、時間に制限のない入浴を実施している(仲のよい利用者2人での入浴)		希望の入浴剤を入れる(季節のものとして菖蒲、ゆず等)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、体を動かす。外気に当たる等して、夜間の安眠を促すようにしている。		昼寝を居室だけではなく、畳の上ですたりしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、談話、TV鑑賞、ドリルを解く、編み物をする、それぞれ好きな事をしてもらっている。		食事の準備、片付け、掃除等の家事をしてもらっている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している利用者もあるが、家族がお小遣いを持たせていない場合には、買い物の際に好きな物を選んで貰う。お金は、施設で立替えて、後で家族に清算してもらっている。		買い物をした際には、利用者に会計をしてもらう。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ほとんど外に出ている。外に出てテラスでの談話、ボール遊び、散歩や畑仕事を行っている。		レクリエーションとして、外食、花見、紅葉狩り、温泉等集団で出かけることもあるが、利用者の希望に合わせて、近場をドライブすることがある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	博物館、記念館、道の駅等に出掛けている。年2回(春秋)家族にも参加していただき、温泉に出掛けている。		ふるさと訪問もしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が書いた手紙は、必ず相手に届くよう協力している(相手の住所を読みわけられないような場合)		自由に交信できるよう配慮している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、近所の人が訪問してくれた際は、居室、ホールに区別なく居てもらい、談笑してもらっている。		訪問、面会は自由にしてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していない。		言葉の中でも拘束するような(ダメ、後で、待ってね)言語は、極力避けるようにしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関のチャイムにて見守りし、鍵はかけていない(遅番の帰る時間→19:30以降に戸締りの為、鍵をかける)		部屋に鍵をつけてない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	無断で外に出る利用者、夜間トイレ後等に居室が分からなくなった利用者に対してそれぞれに対応している。		日中は、デイ、事務、東西各棟お互いに連携を取りながら、気をつけている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等、注意の必要な物は見えない所に保管し、職員が管理している。		日常的に、目隠しの付いたボックスに入れてある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・ハット、事故報告書等を回覧し、それぞれの感性で防止に努めている。		夜間、定期的に居室を見回り、危険のないよう配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、各棟の分かりやすいところに置き、職員は時間のある時、常に見て、把握している。		消防署より指導に来ていただき、講習を行っている(救急救命)。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員が災害対策、避難訓練の実施、救急救命の講習を受け、身につけている。	○	災害発生時の地域の方へのボランティア協力を検討中。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険なことは、家族が訪問してくれた時、近況を伝えながら、話している。		履きやすい、歩きやすい靴、動きやすい、着脱しやすい服等、観察し必要な物は家族と相談している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、行動の緩急、顔色等に気を配り、異常時は職員全員が把握する。		看護師への報告、入浴時の観察
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリスト及び効能、副作用等を把握している。服薬時は必ず確認している		症状の変化は必ず看護師に報告し、医師との連携で指示を仰ぐ。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の量、水分摂取量を把握し、体を動かす事で予防している。	○	食物での便秘予防を検討中
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食前のうがい、三食後の口腔洗浄、夜間の入れ歯洗浄、消毒を毎日している。		ポリデント使用

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の不安定な利用者の主、副、汁をバランスよく摂取できるよう配慮している。		毎月、体重測定を実施
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のワクチン接種は、家族の承諾を得、実施している。		調理から食事までの時間を短くするよう気をつけている うがい、手洗いの励行
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等、毎晩漂白		管理表を作成し、毎日チェックしている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく、チャイムがあり、人の出入には職員が対応する		玄関周りに、花等が飾ってある
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の靴箱に季節ごとの飾り、ホールのカレンダーの工夫、テーブルの上の生花の飾り、廊下は余計な物は無く、躓くことはない		トイレの便器には高低があり、利用者の使いやすい方を使用できるようになっている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスに長いすがあり、自由に外気浴ができる。ホールにはコタツがあり、横になったり、TVを観たり、利用者は、自己決定にて居場所を確保している。		閉じこもり気味の利用者には居室から出るよう促す

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	自由に自分の馴染みの物を持ち込むようにしている。居室内 のコレクションに利用者の写真(家族のも一緒に)貼ってある		家族へ利用者の馴染みの物を持ってきてもらうよう、要請し ている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	不快な臭いは、早く掃き出すよう努めている		24時間換気をしている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下、トイレへの手摺りの設置している		ホールへは腰をかけて足を上げる、四つんばいになったの 昇降
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	自室の入り口に利用者の名札が下がっている。		夜間はトイレ後、混乱を起こし、自室がわからない利用者 には誘導する
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	花壇、プランター作り、畑、ベンチ等の使用、広い駐車場で の歩行運動		天気の良い日は、利用者も活動的である

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、お互い支えあいながら、利用者、職員共に日々「今が一番」と思える瞬間を共有しています。このことが、実践できるのは、利用者と職員、そして家族の思いが一つになっているからだと思います。四季の移り変わりを行事を通じて楽しむ、毎日の家事をこなす、皆で食卓を囲む、団欒を楽しむ・・・当たり前の毎日を送っています。